

年間特集

アイソン彗星を見つけよう

～ウェブを用いた参加型キャンペーンへのお誘い～

縣 秀彦（国立天文台）ほか実行委員会

1. はじめに

国立天文台天文情報センターでは、2004年よりウェブを用いて、天文現象等の市民参加型のキャンペーンイベントを実施してきました。この内容は、流星群、皆既月食、明るい彗星など一般市民にとって比較的容易に観察可能な天文現象の際に、ウェブ上の観察方法等の情報を参考に天体観察を実施してもらい、その結果をネット上に報告してもらうといったものです。各回のキャンペーンの成果は、天候等によって左右されるものの、毎回数百から数千件の報告が寄せられており、効果的なアウトリーチ手法であることを示しています。このキャンペーンでは、普段はあまり天文に興味を持たない市民層や、関心はあるもののアプローチの仕方が分からなかった層を主なターゲットとしており、敷居をなるべく低くして実施しています。

しかし近年では、(1)全国各地の公開天文台やプラネタリウム等の活動と十分、連動しきれていない、(2)マンパワーや資金が国立天文台のみでは十分ではなく、マンネリ化しつつある等の課題も抱えるようになりました。そこで2012年度より、一部のキャンペーンについては、日本天文協議会[1]の下に実行委員会を組織し、天教、JPA、JAPOSなど加盟団体のほか関連企業や団体と協力して実施していくことにしました。

実際、「北極星を見つけよう！」(2012年9～11月に実施)、「パンスターズ彗星を見つけよう」(2013年3～4月に実施)の各キャンペーンは、連携して行われ、この方法のメリットや課題が明らかになってきました。これ

らの経験に基づき「アイソン彗星を見つけよう」キャンペーンを2013年11月～2014年1月に実施します。以下では、このアイソン彗星キャンペーンについてご紹介しましょう。

2. 企画内容

日本天文協議会に国立天文台より申請した内容は以下の通りです。

キャンペーン名：

「アイソン彗星を見つけよう」

主 催： 日本天文協議会アイソン彗星キャンペーン実行委員会[2]

協 力： 日本望遠鏡工業会、(株)アストロアーツ、合同会社科学成果普及機構、天文学普及プロジェクト「天プラ」ほか(調整中)

期間：2013年11月1日～2014年1月20日頃まで(予定)

目 的：

普段、夜空を見上げることがない市民層や児童・生徒たちに、実際の夜空でアイソン彗星を見てもらい、そのようすを観察し感じたことを(さらにはオプションとして写真も含め)投稿していただくことで、天文学への興味・関心を広げてもらうことと、いつどこで彗星がよく見えるかという観察のための情報共有を目的とする。さらに、日本天文協議会に参加している諸施設や学校等からの情報提供やイベントの開催を支援する。

内 容：

ウェブ参加型の誰でも極めて気軽に参加できるイベントとする。

1. 参加希望者は「アイソン彗星を見つけよ

う」キャンペーン（図1）専用サーバーにアクセスする（専用のドメインを取得、アストロアーツ社が運用サーバーを提供）。

2. ウェブには、アイソン彗星の見つけ方、観察方法の紹介などの主要コンテンツの他、彗星に関わる身近なクイズやプレゼントの提供など親しみやすい情報を載せる。

3. 参加者は、ウェブの情報を参考にアイソン彗星を見つけて観察し、ウェブのフォームに、いつでも、彗星が見えたか見えなかったか、見た感想、写真などを入力する。

また、可能であれば facebook やツイッターとも連動させ、情報の広がりをはかる。

4. クイズやプレゼントは個人情報の保護のため、ウェブ上からダウンロードできる内容に留め、組み立て式アイソン彗星軌道模型などを提供する。

（補足）上記のウェブキャンペーンは、「パンスターズ彗星を見つけよう」キャンペーンや国立天文台が実施している天体観察キャンペーンとほぼ同様の仕組みである。例えば、「パンスターズ彗星を見つけよう」

<http://pan.astro-campaign.jp/>

「夏の夜、流れ星を数えよう 2013」

<http://naojcamp.nao.ac.jp/phenomena/20130809-perseids/index.html>

を参照のこと。

を参照のこと。

5. そのほか、関連グッズの開発や関連イベント等の開催を検討する。

広報については次の予定です：

○ポスター、チラシ、ステッカーを制作する。日本天文協議会参加団体等に幅広く配布予定

（注：天文教育普及研究会会員には、本誌「天文教育」に、ポスター、チラシ、ステッカーが同封されます）。ウェブにはチラシのカラー版、白黒版の PDF ファイルを置く。

○日本天文協議会参加団体・機関のメーリングリストやウェブ等で告知予定である。

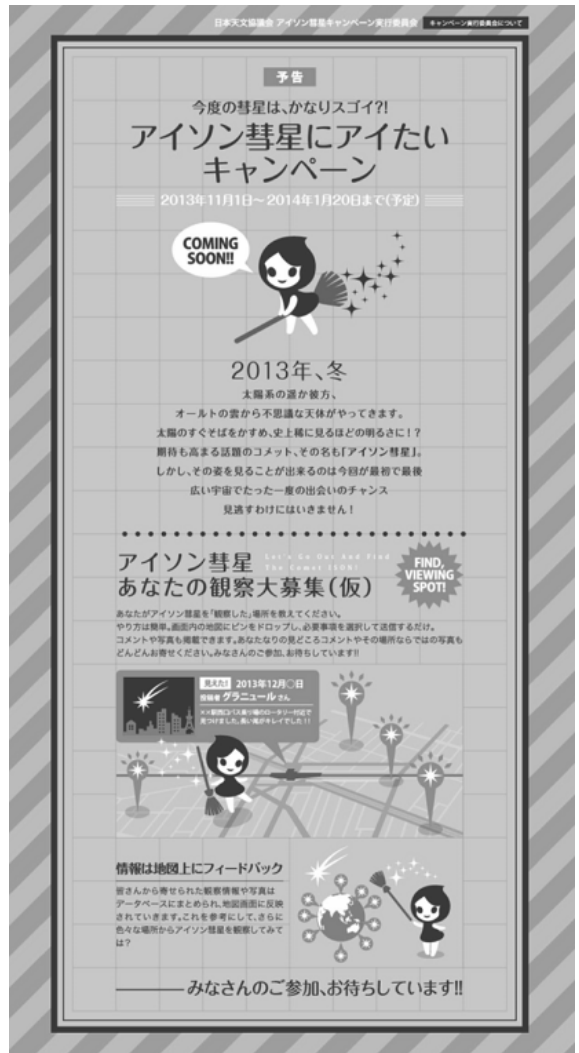


図1 キャンペーンページの例

注：これはテスト用です。本番ページでは、若干、表現が変更になります。

各施設や団体、個人でアイソン彗星観察会などの関連イベントが積極的に開催されるよう日本天文協議会参加団体・機関に広く呼びかけていく。

また、作業スケジュールと分担は以下の通りです：

○ポスター、チラシ、ステッカーを制作し配

布する（9月上旬までに制作、9月下旬より順次配布予定）。

担当：野呂和史、国立天文台、

一般社団法人日本望遠鏡工業会 ほか

*制作費用は一般社団法人日本望遠鏡工業会が負担（感謝！）

ウェブ制作

8月末目標

担当：野呂和史、国立天文台、(株)アストロアーツ、スターライトスタジオほか

*ウェブの維持管理等は(株)アストロアーツ社が無料奉仕（感謝！）

*ウェブデザインや内容の更新費用等は主に国立天文台が費用負担予定

3. おわりに

「アイソン彗星を見つけよう」（別名：アイソン彗星にアイたい）キャンペーンのウェブページ URL は、

<http://ison.astro-campaign.jp/>

です。ぜひ、多くの方々が参加されますようご協力をお願いします。

注

[1] 日本天文協議会について

代表：海部宣男（国際天文学連合会長）

世界天文年 2009 の成果を引き継ぎ、日本の天文学研究・教育・普及・アマチュア活動が一体となって、天文と科学の理解を社会に広げるための合同組織（2010年9月9日発足）。

構成メンバー：日本天文学会／国立天文台（NAOJ）／宇宙航空研究開発機構（JAXA）／天文教育普及研究会／日本プラネタリウム協議会／日本公開天文台協会／日本天文愛好者連絡会／星空を守る会の8団体・機関。

今回のキャンペーンでは、上記、日本天文協議会メンバーのほか一般社団法人日本望遠鏡工業会や天文メディア（アストロアーツなど）、

天文普及団体（天文学普及プロジェクト「天プラ」）ほか関連企業・団体に協力・協賛を依頼中。

[2] 日本天文協議会アイソン彗星キャンペーン実行委員会メンバー：

委員長： 渡部潤一（国立天文台副台長）

顧問： 海部宣男（日本天文協議会会長）

委員：

縣 秀彦（国立天文台）

石崎昌春（国立天文台）

小関高明（姫路科学館／日本公開天文台協会）

大川拓也（JAXA 宇宙科学研究所）

大西浩次（長野高専／天文教育普及研究会）

上山治貴（(株)アストロアーツ）

川崎朋実（JAXA 宇宙教育センター）

菅原賢（神奈川工科大学厚木市子ども科学館）

高田裕行（国立天文台）

高梨直紘（天文学普及プロジェクト「天プラ」）

都築泰久（一般社団法人日本望遠鏡工業会／(株)ビクセン）

豊田哲也（(株)アストロアーツ）

長山省吾（国立天文台）

野呂和史（アート・ディレクター）

広橋 勝（合同会社スターライトスタジオ）

本間隆幸（府中市郷土の森博物館／日本プラネタリウム協議会） ほか

縣 秀彦